



8月末から1ヶ月、突然のデング熱感染が世間を騒がした。今回の報道は、国民が知るべき事実を、ほとんど伝えていない。マスコミの多くは、裏づけ調査もせず、大本営発表そのまま、役所の発表を無批判で報道してきた。

今回、デング熱の最初の発見者は、病院の医師ではなく患者の母親だった。国内感染は、実は1年前に山梨県で発生していたが、何の調査・対策もとられなかった。

デング熱を含め熱帯性感染症は、隣国の韓国や台湾にまで北上し、大問題になっている。何の対策もしていないのは、日本だけといってよい。地球温暖化が原因とされるのに、日本は、アジア諸国とは違う「安全な国」だと言うのだろうか。

マスコミ報道とは裏腹に、ウェブ上には、デング熱などの感染症の情報は、溢れている。何年も前から、専門医師などから様々な警告が発せられている。今回と次回に分けて、この事件の全体像を捕らえるための情報検索法について、説明する。

第四十八話 デング熱を最初に疑ったのは医者でなく感染者の母親だった (1)

I デング熱騒動の経緯

デング熱感染のマスコミ報道は、「日本でまさかデング熱感染、本当！でも、心配する程ではない」という姿勢に終始してきた。福島原発事件で崩壊したはずの日本の安全神話は、世界に広がっている感染症に対して、未だ生きているのである。

大騒ぎになったのは、感染者が拡大したことと感染源が都心であったことが原因している。今回のマスコミ報道(新聞)を中心に、事件の経過に従ってみておこう。

朝日新聞(紙版)の報道は、「デング熱、国内で感染 70年ぶり」(8/27夕刊、390文字)に始まった。その後感染者が拡大し、厚生労働省が22名の感染者が確認された(9月1日)と公表したことから「(時時刻刻)デング熱、なぜ急増 複数の蚊が媒介か」(9/02朝刊、2730文字)という、大きな事件に発展した。

マスコミの大半は、厚労省など役所の発表をそのまま報じる発表報道に終始し、自分の足で調査する調査報道をしなかった。朝日新聞の記事データベースを調べると、大半が役所の報告や会見をそのまま報道する大本営発表そのものであった。

被害者に直接取材し、具体的な事実関係を最初に明らかにしたのは NHK である。NHK ニュース「初のデング熱感染者の行動 正確に把握せず」（9月10日）、クローズアップ現代「デング熱 感染拡大を防げ」（9月10日）で、報道している。

これによれば、患者が高熱を發し病院に入院したのは8月20日、デング熱と確認されたのが25日。病院では病名がわからなかったが、患者の母親がインターネットで調べて、デング熱ではないかと訴え、感染症の専門医に検査がもちこまれ、確認されたのである。

つまり、救急車でかつぎこまれた病院の医師は、デング熱を疑うことをしなかった。患者の母親のように「ネットで調べることもしなかった?」、また「病院内外の知り合いの専門医師に、問い合わせることもしなかった?」のであろうか。

今回の事件は、母親の機転があって子供の感染が確認され、世間に公表されることになった。しかし、入院から5日も立っており、感染日から一週間以上、経過していた。日本の病院は、早期の発見・対策が可能な状態になかったといえる。

これが事実すれば、デング熱を發症したが、夏風邪などの別の病名で処理されてしまった患者は、8月後半にかなり存在していたのではないか、という疑惑が生ずる。国内で感染し發症した被害者の実態は、闇の中とってよい。

これが被害を拡大させた最大の原因である。つまり、デング熱について関心を払っていたのは、ごく一部の感染症の専門医だけであり、日本の病院と医師の大半は、関心も知識も持っていなかった。

問題は、後述するように、ここ数年、海外で感染し国内で發症した患者が、200名程確認されていた事実にある。デング熱感染は、感染者の血を吸った蚊が原因とされているのに、今回の事件との関連性は、全く報じられていない。

騒ぎが大きくなったのは、新宿の代々木公園や新宿中央公園が感染源として浮上したからである。「蚊にさされた、まさか、東京の真ん中で!」という想定外の疑惑が、注目を集めたからといってよい。

つまり、「感染者」より「感染源」が、問題視された。その結果、「公園規制、新宿・横浜も 代々木以外でデング熱感染」（9/06朝刊、1350文字）という騒ぎとなった。9月27日現在、感染者は全国の17都道府県で147人に達している。

当初、高を括っていた厚労省も、感染者数が想定外にまで拡大したため、9月6日に、関係自治体を召集し緊急対策会議を開かざるを得ず、さらに、9月12日には、デング熱の対応マニュアルの改訂版を出さざるを得なくなってしまう。

実は、日本人で病気を發症しデング熱と確認された患者は、2000年以後急増し、毎年平均、200人程いた。この患者は、海外で感染し、日本に帰国して發症したという理由で、今回騒動となった「感染問題」から、なぜか除外されてきた。

この海外感染者の人数は、今回の明らかになった国内感染者数（現時点で147人）よりも多い。今年も海外で感染し国内で發症した患者数が、これまでのように200名程いたとすれば、単純計算して、推定で350名程の患者に達する。

マスコミは、何故、これまで海外で感染し国内で發症した患者について、調査報道もせず、ベタ記事扱いで済ましてきたのか。隣国の台湾や韓国にまで押し寄せてきた被害を無視してきたのか。次回、これらの問題を更に検証してみる（続く）